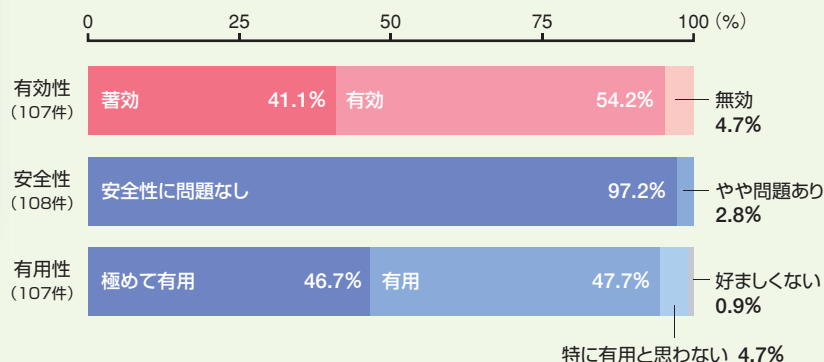


抗凝固薬の選択

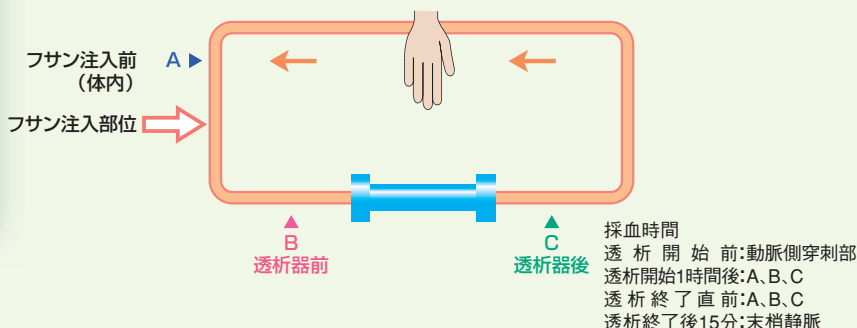
術後ないし出血性合併症を持つ血液透析患者107例を対象に、フサンをプライミング量として20mg、以後原則として40mg/hrの持続注入量で平均7.5回の血液透析を実施し、観察項目の結果に応じて5あるいは10mg/hr単位で増減した（有効投与量：34.2±1.2mg/hr）結果、有効性（有効以上）は95.3%、安全性（問題なし）は97.2%、有効性と安全性を考慮して評価した有用性（有用以上）は94.4%であった。

有効性および有用性



血液凝固時間（CCT）をヘパリンと比較した結果、フサンは体内循環血中では血液凝固時間を延長せず、体外循環路ではヘパリンと同等ないしそれ以上に延長した。出血傾向が増悪した透析は3.7%（20/573回）であった。本試験においてフサンによると思われる副作用は108例中6例（5.6%）、815回中10回（1.2%）に認められ、消化器症状が主なものであった。

血液凝固時間測定のための採血部位および採血時間



フサンおよびヘパリン使用時のCCT

